

40周年に寄せて

寺尾中学校長 伊藤 洋一

城山町 40周年記念、おめでとうございます。

高崎市立寺尾中学校は、昭和57年4月に開校し、令和3年度で開校40年目を迎えました。この間、地域の方々の多大なるご支援、ご協力をいただき、心より御礼申し上げます。

城山町は緑が多い静かな住宅街で、四季折々に様々な表情を見せてくれる、心が落ち着く所です。

生徒数は開校当時の昭和57年は388名、昭和62年の452名をピークに緩やかに減少しており、令和4年5月1日現在221名です。

「自主・創造・真心～自ら学び自ら行動する社会に貢献できる生徒の育成」を学校教育目標に掲げ、全教職員が一丸となって教育活動に生徒と共に取り組んでいます。

新型コロナウイルスの感染拡大により、教育活動が多く変化しました。活動の多くが制限され、実施を中止したり延期したり、内容を変更したりしながら、いかに子どもたちにとって有意義な活動を行うことができるか、日々知恵を出し合いながら取り組んでいる状況です。

また、教育活動が大きく変化し進歩したのは「一人1台のタブレット」の導入でした。めまぐるしく変わる状況に対応するために、本校の開校40年目を迎えた令和3年度は、過去に例のない斬新な取組で子どもたちと楽しく充実した日々を過ごすことができました。

一つ目は「中庭の利用」です。夏季中体連総体に向けた壮行会と吹奏楽部のコンクールに向けた

演奏の披露が、新型コロナウイルスの感染の影響で体育館で行うことができなくなってしまいましたが、職員と生徒会が知恵を出し、中庭を活用して実施しました。校舎に囲まれた中庭にユニフォーム姿や輝く楽器を手にした部員が颯爽と登場し、校舎のベランダから見守る生徒たちから大きな声援と拍手が沸き起こりました。

二つ目は、体育的行事と文化的行事の融合です。感染症拡大により校内文化祭が残念ながら中止となりました。しかし、校内バレーボール大会を行う時期にはやや緩和され、高崎アリーナで行うことが可能となりました。そこで、高崎アリーナで合唱発表会も同時に行う計画が持ち上がりました。高崎アリーナで合唱を行うのは本校が初めてだということでしたが、大きな成果と充実感を得ることができました。

この「本校開校40年目」という節目に、新型コロナウイルスという、今まで経験したことがない状況を目の当たりにしましたが、柔軟でしなやかな考え方や取組の重要性を学びました。

本来であれば、地域の方々にも本校へお越しいただき、上記で紹介させていただいた教育活動をご覧いただければ幸いでしたが、コロナ禍の中それがかないませんでした。しかし、テレビや新聞等のメディアを通して知っていただく機会を多く持つことができ、地域の皆様から「寺尾中学校の取組をテレビで見たよ。新聞で読んだよ」と、励ましのお言葉をたくさんいただきました。

新型コロナウイルスの感染による影響は今後も続くと思われませんが、地域の方々の大きな支えをいただきながら、一人一人が輝き、自ら考え自ら行動しながら社会とつながっていける生徒を育成していきたいと考えています。



開校40年目全校写真



開校40年目航空写真



高崎アリーナでの合唱

感染症予防の看板



バレーボール大会